

講義名	高齢者福祉入門		
科目区分	教養科目		
担当教員	種田 成則		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>わが国は世界有数の長寿国になったが、高齢期を安心して豊かに暮らすことができるような仕組みをいかに創りあげることが大きな課題となっている。本授業では高齢者の身体的、精神的、社会的特性を理解し、そこから生まれてくる高齢期の生活状況の実際や、福祉のニーズ等を知るとともに、高齢者が豊かな高齢期を送るために必要な福祉や関連する制度の概要を学び、住み慣れた地域で高齢期を安心して豊かに暮らし続けることができるような方策を考える。</p>			

到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> わが国の高齢社会の現状について理解し、わが国が抱えている高齢者問題について考えることができるようになる。 高齢者の特性を多角的に理解する。 高齢者を支える福祉や介護のサービスの制度の概要を理解する。 そのうえで、住み慣れた地域で高齢期を安心して豊かに暮らし続けることができるような方策を考える。 自身の興味や関心のある分野や仕事を高齢者の課題に結び付けて考えることができるようになる。 			

提出課題			
簡易なレポート、小テストなどを授業時間内に行うことがある。			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
レポート等を行った場合は、次回授業において講評を行う。			

評価の基準			
期末試験の成績を重視する。			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> この授業は、自分が感じ、考え、行動を始めるためのきっかけづくりである。 能動的な授業参加に勝る学習はありません。 <p>【注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻、途中退出、私語、携帯電話・メール等は他者への迷惑行為であることを理解すること。そのことが理解できずそれらを繰り返す者には厳しく対処する。 			

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
授業中に適宜資料を配布する。

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の目的と進めかた、授業内容の概観 2 高齢社会の現状と高齢者をとりまく課題 3 高齢者の理解 加齢にももたらがらな変化 4 高齢者の理解 加齢にももたらがらな変化 5 高齢者福祉の発展過程 日本型福祉社会の登場まで 6 高齢者福祉の発展過程 社会福祉基礎構造改革と高齢者福祉 7 高齢者を支える福祉、介護、医療等の諸制度の理解 老人福祉法 8 高齢者を支える福祉、介護、医療等の諸制度の理解 高齢者の医療の確保に関する法律 10 高齢者を支える福祉、介護、医療等の諸制度の理解 介護保険制度 11 認知症を知る 12 認知症高齢者・家族への支援ーオレンジプラン 13 高齢者の権利擁護 14 高齢者虐待の現況と高齢者虐待防止法 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>授業中に配布する資料、自身のメモを熟読・整理し、要点をまとめておくこと・1時間程度 高齢者の生活や福祉に係る様々な動向は、テレビ、新聞、雑誌等さまざまなメディアでたびたび取り上げられているので、それらの内容に関心を持ち、授業内容と関連させて考えることが何よりの復習となる。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
<p>実務経験あり 高齢者福祉施設での勤務をとおして経験したこと、あるいは施設関係者との交流を通じてえた情報を適宜、授業を通して伝えていきたい。</p>

備考
<p>授業内容は相互に関連しているため、その関連性について復習すること。また、「高齢者の生活を地域で支える」という視点から、高齢者に関わる地域でのさまざまな取り組みにも興味、関心を深めてほしい。</p>